

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201636		
法人名	社会福祉法人 エムアール会		
事業所名	グループホーム グリーンピア「ユニット1」		
所在地	札幌市北区篠路1条9丁目1番41		
自己評価作成日	令和 3年 9月 1日	評価結果市町村受理日	令和 3年 12月 8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170201636-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・コロナ禍の中でも利用者様には何時もと変わりなく過ごして頂けるよう、安全、安心な対策を取りながら、施設内で楽しめる食事の提供など工夫して行っています。
- ・ホーム独自の委員会を通じて入居者様のより良いサービスに努めています。レク委員会は可能な限りホーム内で安全に行えるお楽しみ会の工夫をし、広報委員会は広報誌での入居者様の元気な様子を お知らせしています。学習委員会では、入居者様の介護をより良いものにする為、個人学習を通して技術の向上に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市北区の自然環境豊かな地域に建つ3ユニットからなるグループホームで、駐車場も広く家族も訪問しやすい環境である。近隣に同法人運営の特別養護老人ホームや障害者支援施設があり、法人と連携をとりながら相互協力を活かした運営がなされている。現在は、新型コロナウイルス感染対策のため事業所での家族面会を制限し、冠婚葬祭以外の外出を原則禁止と徹底して利用者の健康を第一に考え取り組んでいるが、家族への連絡や報告を密にしているため家族からの評価も高い。職員は各種の委員会や係の担当を持ち、お互いに意見を出しやすい環境であるため提案等は運営に反映されている。定期的なアセスメントを実施し、現状に即した細かな介護計画を作成している。共有空間は家庭的で日当たりが良く快適で十分なスペースを確保している。午前中はテレビ体操で体力低下を補っており、食後は好きなテレビ番組を見たり昔話をしてのんびりと寛いでいる。居室も広く、利用者ごとに好きなものを飾って安心して過ごせる部屋になっている。管理者と職員は「穏やかで安心した暮らし」の実現のために利用者へ寄り添い、必要としている適切なケアサービスが提供できる様に日々介護支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関先やユニットの見える所に掲げ理念を共有している。職員はネームプレートの裏にも携帯し、いつでも確認、意識出来るようにしている。	地域の中で穏やかで安心した暮らしの実現を理念に掲げており、職員はネームプレート裏に理念カードを携帯し常に意識し説明しながら日々の業務についでいる。職員の入職時に理念を説明し実践できるように話をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム前の掲示板の活用で施設のお知らせをしている。現在はコロナ禍の為、直接の地域との交流は行っていない。	感染症対策のため地域との交流は困難であるが、屋外の掲示板に写真や文面で事業所での暮らしぶりが確認できるような掲示をするなど、現状で出来る事を実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防から運営推進会議を自粛しているが、民生委員や予防センター等に運営推進会議議事録を送付し、日常業務や介助を通じて学んだ事をお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防から対面での会議は開催出来ず、書面でグループホームの活動報告や入居者様の様子を、年5回お知らせした。	運営推進会議で事業所の報告や感染症対策、ワクチン接種状況、外部評価結果等を話し合い、まとめたものを地域包括支援センター、介護予防センターへ郵送し、得られた意見も掲載して議事録を作成している。議事録は家族へ送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者や施設長が市の担当者と連絡を取り、協力関係を築けるように取り組んでいる。	市の管理者会議は書面で郵送されており、アンケートを返信するなど協力関係を築いている。区職員が生活保護受給者の確認に訪れた際は、感染予防対策を整えて玄関のガラス越しで対面し、確認項目は事業所で説明している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会で学んでいる。やむを得ない事情を除いては身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関前の道路は交通量が多く危険な為、家族様の同意を得てボタン操作をしている。	交通量が多い街道沿いのため安全目的で施錠をしているが常に開錠できる状況である。身体的拘束等の適正化に関する指針があり、委員会を年4回開催し参加できない職員へも回覧し周知している。それらに係る研修も今年度2回実施する予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の学習会で学ぶ機会が多くある。虐待に繋がる行為を行わないよう、注意喚起、防止に努めている。		

グループホーム グリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会で学ぶ機会がある。成年後見制度を利用している方がいる場合は、関係者の方と話し合ったり情報を共有していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約時は書面を元に十分な説明を行い、理解、納得を得ている。改定時には依頼分を発送し理解を得て、必要な項目には同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所前に意見箱を設置している。家族連絡帳の活用や、来訪時に話を聞いている。苦情ノートもあり意見、対応したことを記録に残し運営に反映させている。	ケアプラン更新時の郵送物に利用者の生活状況を書き添えて報告をしている。家族へ電話連絡の際も暮らしぶりを伝え意見をもらっている。年6回発行の広報「笑顔」を家族へ送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍で一同に会する機会は少ないが、日々の業務の中で管理者が職員の意見や提案を聞いてくれている。	職員の希望する休日はシフト作成時に調整している。業務では多種の分野で職員が活躍できるよう、各種の委員会や係の役割を分担しながら運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新型コロナウイルス感染予防から、要望形式でアンケートの提出を行った。また、日常業務中でも個別に管理者に聞いてもらえる機会があり反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で全員で集まっての研修は行えないしているが、ユニット毎の少人数の勉強会や個人学習等の形で配慮しつつ行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、実際に面談する形で実施する事は難しいが、メールや電話、あるいは広報誌の送付といった形で相互の交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居見学相談時に利用者様、家族様の現状や要望、ホームでの生活に対する不安等を聞き話をすることで、安心して生活が出来るよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階から十分な話しを聞くことで、困っている事や不安等を把握し、安心して頂けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人様や家族様の思いなど現状を把握し、安心して頂けるよう関係づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話でコミュニケーションを図り、人生の先輩として接している。また、個々の残存能力を活かした支援を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナ禍の為面会に制限はあるが、来訪時に様子を伝えたり、運営推進会議の報告、広報誌「笑顔」の送付や家族連絡帳を活用してコミュニケーションを図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍の為、玄関先での面会交流となっているが、そんな中でも来訪時には過ごしやすいように配慮している。	現在は面会制限期間中であり、以前は家族との外出や友人・知人の訪問もみられたが、馴染みの関係が途切れないよう電話や手紙での交流を支援している。親族の葬儀に参列して来た利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、相性を把握して座席位置を配慮し関りが持てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族様より電話を頂いたことあり相談や取りがあった。連絡が取れるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活に対する希望、日々の会話や行動などから思いを把握し本人本位に考え検討している。	利用者の希望や意向は個人記録に記入し、モニタリングで情報を共有し、6か月ごとにアセスメントシートを更新している。言葉にならない些細な行動を観察し、意向の把握をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との日々の会話や家族様からの情報を収集し記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンや体調の変化を日々の歩行や排泄状況等から把握している。記録にも残し職員間で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや家族の思いや希望を取り入れ、現状に合わせたプランを作成している。	3か月ごとにモニタリングと評価を繰り返し、家族の意向も取り入れ6か月ごとに介護計画を作り上げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきやケアプランの実践は個人記録に残し、職員間で情報を共有出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況やニーズに対応して、病院受診や買い物代行など、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため感染予防から外部との接触は極力控えており、外出や行事等を通じた近隣との交流は難しくなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の説明を行い、同意を得て事業所の往診を受けている。また、今までのかかりつけ医を希望される場合も支援を行っている。	3か所の医療機関から往診に来ている。看護師を職員として配置し、医療連携健康管理記録を記入している。利用者の受診は管理者が同行しており、受診と往診の記録は個別に記録をしている。	

グループホーム グリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週に1回健康管理を行っている。24時間の医療連携もあり、入居者様の変化時には適切に対応できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が窓口となり、入居者様が不安なく治療が受けられるよう、また、早期退院に向けて、家族様や医療関係者と情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応について指針があり、入居時に説明している。状態の変化時にグループホームでの生活が困難になった時は管理者が相談にのり支援している。	「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、契約時に取り交わしている。終末期は家族と事業所と医師で話し合い、計画を見直し現状に即したものに变更している。看取りを実施しており「看取り介護実施状況記録」で振り返り学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて緊急マニュアルをすぐ確認出来る所に置いて対応出来る様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルス感染予防の為、施設全体での訓練が難しくなり、ユニット毎に個別に訓練し災害時対策マニュアルを再確認する事で対応した。	令和2年4月の避難訓練以降は未実施であるが、今年度中に自然災害を想定した訓練の予定がある。備蓄品は特別養護老人ホームで一括完備し、感染症対策のための避難用品も揃えている。	今年度中に自然災害を想定した訓練を実施する予定であるため、その実現に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛けや、プライバシーを損ねない対応をしている。	法人のマナーハンドブックで接遇を学び、尊厳重視の対応をしている。記録類は他者の目に触れぬ場所で記入し、スタッフスペースで保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での本人の思いや希望を傾聴し、自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、出来るだけ個人の思いを優先し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定出来る方には、その人らしいおしゃれが出来るよう、身だしなみを整える等支援している。		

グループホーム グリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように、個々の好みや量の把握をし工夫している。もやしのひげ取りなど出来ることを職員と一緒にやっている。	バランスの良い食事が提供されているが、誕生会や行事は焼肉、お好み焼き、焼きそば等の利用者の好みに変更している。カップラーメンやコンビニのおにぎり等の要望があれば支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻みやトロミの活用、栄養補助飲料の提供など行っている。水分量は主治医の助言を基に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内の状態確認し、夜間は義歯洗浄剤使用し洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用しトイレ時間の把握をしている。排泄パターン、習慣を活かしてトイレでの排泄、自立に向けた支援をしている。	全員の排泄記録を付けている。就寝前に便座に腰掛け排泄を促すなどで熟睡に結び付けている。排便が困難な利用者には乳製品や水分を多めに提供しスムーズな排泄ができるよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を多く提供したり、冷たい牛乳の提供など行っている。便秘傾向強い時は医師に相談もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一番入りたい方や、声掛けに拒否のある方はタイミングを計り、日にちを変更したり配慮する事で気分良く入浴出来るように工夫している。	予め入浴日を曜日ごとに固定せずに週2回の入浴を促しているが、利用者の希望で翌日に変更する場合もある。シャワーチェアや回転ボードを使い利用者の状況に合わせた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、午後から1～2時間臥床、休息出来るよう声掛け支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現病の把握をし薬情書ファイルも直ぐに確認出来る所に置いている。副作用など病状の変化の確認が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように一人ひとりの生活歴、力を活かした役割、楽しみ、気分転換の支援をしている。		

グループホーム グリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防から現在は行っていない。	感染症の流行前は百合が原公園、神社、花見など希望の場所へ出かけたり、近隣の公園まで散歩をしていた。現在は外出制限中であり、戸外へ出る機会が少ないが受診のための外出や、親族の葬儀に出かけた利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今現在現金所持されている方はいない。新型コロナウイルス感染予防から行事としての買い物レクも行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは行っている。本人の希望に応じていつでも家族様に電話を掛ける事など支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間が利用者にとっての不安や混乱を招く様な刺激が無いよう配慮し、居間の壁には季節感を出したり、飾りつけや入り口付近には行事の写真を貼りだしている。	居間、台所、ホールと、大きな窓で広く清潔な空間となっている。エアコンや空気清浄機で空調管理され、行事の写真や季節感のある飾りが掲示されている。午前はテレビ体操をしたり、食後は居心地の良いソファに腰掛け自由にテレビを見たり職員と話をするなど、ゆっくりとした時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方々で座れるように、また食堂などでも過ごせる様配慮している。現在はコロナ禍の為、間隔を開けて座って頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの写真など持ち込まれ、居室でも居心地良く過ごせる様工夫している。	明るく暖かな部屋にはテレビ、タンス、椅子、仏壇、日本人形、家族写真、アルバム、手作りの作品など思い出の品に囲まれ、心穏やかに過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には表札、トイレには大きく張り紙をして、わかりやすく工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201636		
法人名	社会福祉法人 エムアール会		
事業所名	グループホーム グリーンピア「ユニット2」		
所在地	札幌市北区篠路1条9丁目1番41		
自己評価作成日	令和 3年 9月 1日	評価結果市町村受理日	令和 3年 12月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中でも利用者様には何時もと変わりなく過ごして頂けるよう、安全、安心な対策を取りながら、施設内で楽しめる食事の提供など工夫して行っています。 ・ホーム独自の委員会を通じて入居者様のより良いサービスに努めています。レク委員会は可能な限りホーム内で安全に行えるお楽しみ会の工夫をし、広報委員会は広報誌での入居者様の元気な様子を お知らせしています。学習委員会では、入居者様の介護をより良いものにする為、個人学習を通して技術の向上に取り組んでいます。
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201636-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年9月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関フロアの目に付きやすい場所に掲げられている。また、管理者と職員のネームプレートの裏側にも表示しており、常に意識して業務を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防対策の徹底から、直接の地域との交流は自粛している。施設前の掲示板に活動や日々の様子を掲示し繋がりを持つようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防から運営推進会議を自粛しており活かす機会が少ないが、電話等で問い合わせがあった場合は相談にのっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防から対面での会議は開催出来ず、書面でグループホームの活動報告や入居者様の様子を、年5回お知らせした。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者や施設長が市の担当者と連絡を取り、協力関係を築けるように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束廃止委員会の会議議事録を回覧し周知徹底を図っている。また、施設独自の学習委員会が作成した資料を感染予防から自己研鑽している。内玄関の自動ドアは建物前が交通量が激しく危険なため、家族様の同意を得てボタン操作している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法や施設資料を感染予防に配慮した施設勉強会で理解を深めている。また、虐待が見過ごされないように注意を払い、見たり感じた時は職員間で声掛け合い防止に務めている。		

グループホーム グリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	感染予防から施設資料を個々に学習するなど理解を深めているが、現在は必要としている対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約時は書面を元に十分な説明を行い、理解、納得を得ている。改定時には依頼文を発送し理解を得て、必要な項目には同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染予防から、家族様の来訪を自粛しており意見を聞く機会が少ない為、定期的に電話して伺うなど運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新型コロナウイルス感染予防から一同に会する会議は開催出来なかったが、日々の業務の中で管理者が意見や提案を聞き背施設長に報告がされ、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新型コロナウイルス感染予防から、要望形式でアンケートの提出を行った。また、日常業務中でも個別に管理者に聞いてもらえる機会があり反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で全員で集まっての研修は行えないしているが、ユニット毎での少人数の勉強会や個人学習等の形で配慮しつつ行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、実際に面談する形で実施する事は難しいが、メールや電話、あるいは広報誌の送付といった形で相互の交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居見学、相談時に利用者様、家族様の現状や要望、ホームでの生活に対する不安等を聞き話をすることで、安心して生活が出来るよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階から十分な話しを聞く事で、困っている事や不安を把握し、安心して頂けるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人様や家族様の思いなど現状を把握し、必要なサービスはないか検討しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来ないことを支援する気持ちで接し、日々の生活する中で協力しながら共に支えあう関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染予防から来訪の自粛をしており、電話報告や事業所独自の広報誌と手紙を郵送するなど関わりを多くしている。来訪時は玄関越しに会い携帯電話を使用するなど会話している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活の中で馴染みの人や場所を聞き取り、記録に残すなど関係が途切れないようにしている。新型コロナウイルス感染予防から家族様との外出は病院等と限られている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の会話や行動の中から入居者同士の関係を把握し、食席や居間ソファの位置を考えている。職員も関わり孤立しないように務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が窓口となって相談や支援に努め、機会があれば家族様と連絡をとるなど、これまでの関係性を大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で、一人ひとりの希望や意向を事業所独自の申し送りノートに記入し共有している。困難な場合は家族様に相談し検討している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に把握するほか、日常の生活の中で少しずつ情報を収集している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や事業所独自の申し送りノートで情報を共有し、個々の現状把握に務めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者がモニタリングを行い、入居者様の要望や家族様の意見を取り入れ、介護支援専門員が中心に話し合い、現状に即した介護計画を作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に様子やプラン実践結果など細かく記録し共有している。気づきや工夫がある場合は事業所独自の申し送りノートを活用するなど介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況やニーズに対応して、病院受診や買い物代行など、柔軟に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため感染予防から外部との接触は極力控えており、外出や行事等を通じた近隣との交流は難しくなっている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医や事業所に往診に訪れる協力医を主治医に変更する場合もあり、本人様や家族様の希望を大切に支援している。			

グループホーム グリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が週に1回健康管理を行っており、記録に残している。また、医療連携体制から24時間連絡可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が窓口となり、入居様様が不安なく治療が受けられるよう、また早期退院に向けて、家族様や医療関係者と情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応について指針があり、入居時に説明している。心身状態の変化時は、随時家族様に報告し、状態の悪化時は、主治医を交え話し合い、方針を共有して取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急ファイルが常に手の届く所にあり、急変や事故発生時に対応出来る様にしている。新型コロナウイルス感染予防から実施訓練を自粛しておりテキストで確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルス感染予防の為、施設全体での訓練が難しくなり、ユニット毎に個別に訓練し災害時対策マニュアルを再確認する事で対応した。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の症状の違いを理解し、周囲との関わり方を考えた上で、一人ひとりの人格を尊重した対応に務めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせて「はい、いいえ」で意思確認したり、複数の内容を用意するなど自己決定できるように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、どの様にすご事が一番嬉しいか把握に努めて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは本人様の好みを活かせるように支援している。		

グループホーム グリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る入居者様には、下拵えや食器拭きをお願いしている。個々の誕生日には、特別メニューの食事や誕生日会でケーキもあり喜ばれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の健康状態に合わせて、刻み食やミキサー食、粥などで提供し摂取しやすい様にしている。習慣に応じて、好みの物や甘さの調整もしている。水分量はチェック表に記入し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔の声掛けをし、介助が必要な入居者様は職員が行っている。夜間は毎日義歯洗浄し清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表からパターンを把握している。さりげなく促したり、雰囲気を感じし誘導する事で、失敗やおむつの使用を減らせている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表から状態を把握して、一人ひとりに合った排便コントロールを行っている。運動の提供や水分補給、乳飲料の提供など予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を見て希望や体調を確認し、一人ずつゆったりと入浴しているが、安心安全のため職員の多い時間に限られている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋で休みたいと希望時は対応し、居眠りが見られた時は臥床を促す場合もある。夜間はゆっくりと眠れる様に室温や寝具の調整、就寝時間など一人ひとり希望に沿って支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報は確認でき、処方薬の効果や副作用など把握している。薬の変更や臨時薬は、症状の変化など観察し記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新型コロナウイルス感染予防からレクリエーション活動は自粛しているが、嗜好品やお手伝いなど希望に沿って提供している。		

グループホーム グリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望を把握し外出レクリエーション、施設行事、季節ごとのプチ散歩など新型コロナウイルス感染予防から日常的な外出支援は自粛している。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、現金を所持している入居者様はいない。新型コロナウイルス感染予防から施設行事で外出して買い物するのも困難な状況である。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙が届いている。入居者様や家族様の希望がある場合は積極的に支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内は季節ごとに手作りの装飾を施し季節感を取り入れている。日差しの強い時はカーテンを閉めたり居心地良く過ごせるように工夫し、刺激なような音や色の気配りも行っている。新型コロナウイルス感染予防から換気に注意している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間ソファや食席で、一人ひとり好きな場所で過ごす事が出来る。また、気の合う人同士が思い思いに過ごせるよう居場所の確保もしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、使い慣れた物や好みの家具が置かれたり、家族様との記念写真や誕生日カードが飾ってあり居心地よく過ごせる様な工夫をしている			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ自立した生活を送れる様に、バリアフリーで居室内はクッションフロア、通路が広く車椅子同士がすれ違う事ができる。トイレ表示もわかりやすく、洗面所も使いやすく把握されている。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201636		
法人名	社会福祉法人 エムアール会		
事業所名	グループホーム グリーンピア「ユニット3」		
所在地	札幌市北区篠路1条9丁目1番41		
自己評価作成日	令和 3年 9月 1日	評価結果市町村受理日	令和 3年 12月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中でも利用者様には何時もと変わりなく過ごして頂けるよう、安全、安心な対策を取りながら、施設内で楽しめる食事の提供など工夫して行っています。 ・ホーム独自の委員会を通じて入居者様のより良いサービスに努めています。レク委員会は可能な限りホーム内で安全に行えるお楽しみ会の工夫をし、広報委員会は広報誌での入居者様の元気な様子を お知らせしています。学習委員会では、入居者様の介護をより良いものにする為、個人学習を通して技術の向上に取り組んでいます。
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201636-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年9月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、ユニットに掲示されており、また職員もネーム裏に携帯し常に確認しながら業務を行えるようになっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム前の掲示板を活用して地域の皆さんと繋がりを持つようになっている。直接の地域との交流は、新型コロナウイルスの影響により行えていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため完成予防から、運営推進会議は自粛しているが、民生委員や予防センター等に運営推進会議議事録を送付し、日常業務や介助を通じて学んだ事をお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防から対面での会議は開催出来ず、書面でグループホームの活動報告や入居者様の様子を、年5回お知らせした。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者や施設長が市の担当者と連絡を取り、協力関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会があり会議記録を回覧、周知徹底を図ったり、学習を行い介護者側の言動や行動が拘束とならないよう心掛けながら日々のケアに取り組んでいる。玄関の施錠に関してはホーム前の道路状況もあり、止むを得ず家族様に了解を得てボタン操作としている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の学習を行い理解を深めている。また、そのような状況を見たり感じた時は職員間で声を掛け合う様にしており、日々防止に努めている。		

グループホーム グリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は新型コロナウイルスの影響で研修の機会が無い為、資料を使い個人学習として学ぶ機会を設けている。現在活用されている方が1名おり、より理解できるように学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約時は書面を元に十分な説明を行い、理解、納得を得ている。改定時には依頼文を発送し理解を得て、必要な項目には同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は新型コロナウイルスの流行により来訪が自粛されており電話や手紙での聞き取りとなっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一同に会する会議は、新型コロナウイルスの流行により行えていないが、日常的に管理者が意見や提案を聞き取り改善に繋がるように反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新型コロナウイルス感染予防から、要望形式でアンケートの提出を行った。また、日常業務中でも個別に管理者に聞いて貰える機会があり反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で全員集まってる研修は行えないですが、ユニット毎での少人数の勉強会や個人学習等の形で配慮しつつ行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、実際に面談する形で実施する事は難しいが、メールや電話、あるいは広報誌の送付といった形で相互の交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居見学、相談時に利用者様、家族様の現状や要望、ホームでの生活に対する不安等を聞き話をすることで、安心して生活が出来るよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階から十分な話しを聞く事で、困っている事や不安等を把握し、安心して頂けるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人様や家族様の思いなど現状を把握し、必要なサービスはないか検討しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事や片付けを行い、会話の中から職員の知らない事を教えて頂き、共に支え合えるよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染予防から来訪の自粛や面会方法が変更になってはいるが、電話での報告や来訪時に家族連絡帳での報告を行なう事で家族様と一緒に支えて行けるよう関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は新型コロナウイルスの流行により外出など支援出来ない。電話等を使用した関係の継続には努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で入居者同士の関係性を把握し、家事作業等でコミュニケーションを取り、関わり合いが持てるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族様からの問い合わせ等に応じ、対応出来るようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中や生活から意向を把握し支援している。困難な場合はご本人様の表情等から組み取ったり、家族様の意見を取り入れて検討し支援している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報を頂くと共に、ご本人様や家族様の話しの中からも情報を得て把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や状態を観察し記録に残し、情報を職員間で共有し現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に評価、アセスメントを行い、ご本人様や家族様の要望を取り入れ、現状に合った介護計画を作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子や介護計画の実践結果が記入され、職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かされている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況やニーズに対応して、病院受診や買い物代行等、柔軟に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため感染予防から外部との接触は極力控えており、外出や行事等を通じた近隣との交流は難しくなっている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、家族様に納得して頂き、ホームのかかりつけ医に定期的な往診を受けている。専門的な治療を必要とする方には、専門医に診てもらえるよう支援している。			

グループホーム グリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週に1度健康管理を行うと共に、体調変化時には何時でも相談できる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が窓口となり、入居様様が不安なく治療を受けられるよう、また早期退院に向けて、家族様や医療関係者と情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化について説明し理解して頂き、重度化により終末期が近くなった際に、家族様、主治医、看護師を交え話し合いをさせて頂き、その方向性に合わせた支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急や緊急時の対応マニュアルがあり、定期的に学習会を行っている。実戦での訓練はコロナ禍の為行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルス感染予防のため、施設全体での訓練が難しく、各ユニット毎に個別に訓練し、災害時対策マニュアルを再確認する事で対応した。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりを尊重した言葉掛けやプライバシーを守る対応を、それぞれの利用者様の状態に合わせて行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望に沿えるように声掛けを行い、利用者様が選択し決める事が出来るよう工夫して支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりペースを大切に希望に沿う様にしているが、他の方と重なったりと希望に沿えない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら用意の出来る方は自ら選び、出来ない方はご本人様の好みを考えて、スタッフが用意を手伝っている。		

グループホーム グリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に合わせた食事の提供を行い、その方の能力に合わせて、茶碗拭き等の片付けを行って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量共に記録に残し把握する事で、水分の不足している方には多く摂取して貰えるよう、好みの物を提供など工夫している。食事量は、個々の食べれる量や代替品の提供、食べやすい状態と工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行える方には声掛けを、手助けの必要な方にはそれぞれに合わせた介助を行い、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄間隔を把握して、それぞれに合わせて声掛け誘導を行い、出来るだけトイレで気分良く排泄出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操で身体を動かしたり、乳製品の提供や水分を多く摂取して頂けるよう働き掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほとんどの方が介助が必要となり、入浴時間は決まっているが、ゆったりと気分良く入浴して頂けるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせて就寝して頂いたり、夜間の睡眠が不足の方には日中休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報書がファイルされており、内容の確認、把握が出来る。また、薬の変更時にはバイタル測定、状態の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なこと、好きな事、出来る事など把握し、それぞれに合った役割(家事の手伝い)や楽しみ事を提供している。		

グループホーム グリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナウィルスの影響から外出出来ず、支援出来ていない。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の理解が出来ている利用者様には家族様と相談の上所持して頂き、買い物代行の支援を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様と電話で話されたり、家族様にお手紙を書く支援をしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーは季節を取り入れた飾りをしたり、行事の写真飾り付けしている。居間等の共用空間では温度、湿度に気を付けながら換気し、窓からの日差しにも気を配り、過ごしやすい空間作りをしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファが4つ、食堂に椅子と、気の合う方と過ごせるようにスペースを保ちながら工夫した居場所作りを行っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の使い慣れた物や、馴染みの物を持ち込んで頂き、居心地良く過ごせるよう工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札、トイレには目印があり、フロアーに手すりが設置、居室内はクッションフロアーと安全に生活出来るように配慮されている。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム グリーンピア

作成日：令和 3年 11月 26日

市町村受理日：令和 3年 12月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	新型コロナウイルス感染症の流行により、現時点では自然災害を含めた避難訓練を行えていない。	今年度中に、自然災害を含めた避難訓練を行う。	①感染流行の状況把握をしながら自主訓練を行う。その際は密にならないよう対人距離を確保し行う。 ②避難先、必要な備蓄品(保管場所)の把握。	R3年度中
2	10	現在、新型コロナウイルスの感染予防から、家族様の来訪は、正面玄関でのガラス越しの対面となっている。家族様へは主に電話での報告や、ケアプラン発送時に様子を伝えるに止まっている。	入居者様の日々の暮らしぶりを定期的にお知らせする。	週に1度記入しているご家族様連絡帳を元に、入居者様の日々の様子や健康状態を含めてまとめて送付する。	12月末
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。